

## 整形外科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによつて行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究にかんする倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。また、当研究に情報を利用することをご理解いただけない場合につきましても、以下の「問い合わせ先」へご連絡ください。

〔研究課題名〕 肘周囲軟部組織欠損に対する、上腕動静脈への端側吻合を行った遊離皮弁術の有効性と安全性の検討

〔研究機関〕 帯広厚生病院整形外科

〔研究責任者〕 太田光俊（帯広厚生病院 整形外科 医長）

### 〔研究の目的〕

肘周りの皮膚や筋肉の欠損は、手術後の感染や大きなケガ、腫瘍の切除後に発生します。従来の修復方法は肘周囲から皮膚や筋肉を移動させるものでしたが、その移動距離には限界があることが知られています。新たな方法として「遊離皮弁術」を用いる方法が注目されており、これは体の離れた部位から皮膚や筋肉を移植し、血管を吻合する手術です。

これまでに私たちは、新しい血管吻合方法として Microscopic Parachute End-To-Side (MPETS) 法を開発してきました。MPETS 法では、移植する皮膚や筋肉の血管を、上腕動静脈といった主要な血管に慎重に吻合します。この方法を用いることで、血管同士のサイズの違いに左右されず、常に均一な吻合が可能となります。この技術により、遊離皮弁術を安全に行うことができると考えています。

本研究の目的は、肘周りの皮膚や筋肉が失われた場合に、MPETS 法を用いた遊離皮弁術の有効性と安全性を調査することです。

### 〔研究の方法〕

●対象となる患者さん：2018年4月から2023年9月までに当院整形外科にて、肘周囲軟部組織欠損に対して遊離皮弁を受けた患者様。

#### ●利用するカルテ情報

- ①年齢、性別、病歴情報
- ②皮弁の情報
- ③手術の内容
- ④皮弁の成績と合併症

### 〔個人情報の取り扱い〕

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌等で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。